

釧路湿原川レンジャー News

2015 Vol.3

第2回「釧路湿原川レンジャー学習会」が開催されました

平成27年8月5日(水)に、21名が参加して「第2回釧路湿原川レンジャー学習会」を開催しました。

今回は、しべちゃ水辺の楽校での「釧路川の水質・水生生物調査」と標茶町茅沼での「自然再生事業現場見学、魚類の捕獲・観察」を行いました。



位置図

水質・水生生物調査について

北海道開発局では、毎年、北海道の主な河川で地域住民の方々と一緒に川の水質状況を調査しており、平成17年から釧路湿原川レンジャーも参加しています。この調査は、川の水質を参加者に直接確認していただき、川に対する関心を高めることを目的としています。なお、今年も例年通り、標茶町立標茶小学校の6年生3名が参加して、一緒に調査を行いました。

しべちゃ水辺の楽校にて調査

調査前に注意事項として、熱中症対策、怪我防止のために素足では川に入らない事や水難事故防止などの説明を行いました。

調査は、参加者全員がライフジャケットを着用して4班に分かれて行いました。調査内容は、①水温・川底の感触・流速・透視度などの「川の状態観察」、②簡易水質試験用具を使った「簡易水質調査」、③川底の石やトラップ（設置した上流で川底を足でかき混ぜ、白い布に捕獲）に付着した生物を採取する「川の水生生物調査」などを行いました。



注意事項の説明

●調査結果

調査終了後に行った、各班からの結果報告を表-1, 2にまとめました。今回の結果をA~Dの4段階で評価すると「川の状態観察」の川底の感触と糞便性大腸菌群数がBランクだったので、『人と河川の豊かなふれあいの確保』はBランクでした。しかし、『豊かな生態系の確保』では、「簡易水質調査」、「川の水生生物調査」の項目全てが一番良いAランクとなり、川的环境としては非常に良好であることがわかりました。



①透視度計での透視度調査



②簡易水質調査

なお、参加者からは次のような質問や感想がありました。

○釧路川のランクは、どのくらいですか？

→昨年の結果で、両方ともAランクだったので、道内でも上位に入ります。

○今回はすごく楽しいこともあり、川のキレイさとか詳しいことも知れたので、良かったです。（標茶小学校児童）



③川底の水生生物を捕獲



調査中に手で捕獲したウナギザリガニ



班ごとに結果発表



参加者全員で記念撮影

表-1 人と河川の豊かなふれあいの確保(遊びやすさ)の調査結果

ランク	ゴミの量	透視度 (cm)	川底の感触	水におい	糞便性大腸菌群数 (個/100mL)
A	川の中や水際にゴミは見あたらないまたは、ゴミはあるが全く気にならない	100以上	快適である(素足で入りたいと感じる)	不快でない	100以下
B	川の中や水際にゴミは目につくが、我慢できる	70以上	不快感がない(履物があれば入りたいと感じる)		1000以下
C	川の中や水際にゴミがあって不快である	30以上	不快である(履物をはいても入りたくない)	水に鼻を近づけると不快な臭いを感じる	1000を超えるもの
D	川の中や水際にゴミがあってとても不快である	30未満		水に鼻を近づけるととても不快な臭いを感じる	

表-2 豊かな生態系の確保(生き物の住みやすさ)の調査結果

ランク	説明	DO (mg/L)	NH ₄ -N (mg/L)	水生生物の生息
A	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好	7以上	0.2以下	I.きれいな水・ヒラタカゲロウ・カワケラ 等
B	生物の生息・生育・繁殖環境として良好	5以上7未満	0.5以下	II.ややきれいな水・コガタシマトビケラ・オオシマトビケラ 等
C	生物の生息・生育・繁殖環境として非常に良好とは言えない	3以上5未満	2.0以下	III.きたない水・ミズムシ・タニシ 等
D	生物が生息・生育・繁殖しにくい	3未満	2.0を超えるもの	IV.とてもきたない水・ユスリカ・チョウバエ 等

※糞便性大腸菌群数は、当日採水して実験室での分析結果 (180個/100mL)

「自然再生事業現場見学、魚類の捕獲・観察」

午後からは、標茶町茅沼の旧川復元現場に移動し、今年の3月に完成した自然観察路（木道）を歩きながら見学しました。また、木道の下流端にある旧川復元と自然河川の合流部で魚類の捕獲・観察を行いました。

●自然観察路（木道）について

自然観察路は、旧川復元区間において湿原を踏み荒らさずに復元後の河川環境調査を行うことを目的に整備されました。参加者は、完成した観察路を歩きながら、復元した釧路川旧川の河川景観やハルニレなどの河畔林、対岸のヨシ群落などの観察を行いました。

●魚類の捕獲・観察について

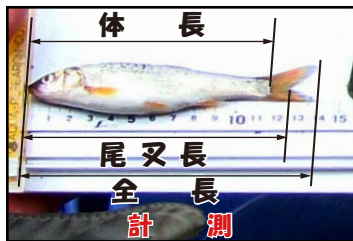
「茅沼地区旧川復元事業」により元の蛇行した河川に戻ったことで、魚類の生育環境の復元が期待されます。そこで今回の調査は、旧川復元後の魚類相の変化を把握するために行いました。

調査は、図の調査地点で、事前に採捕の許可を得た投網（約4.5kg）とカゴ網を使用して行いました。投網で捕獲したウグイ、ヤマメ（サクラマスの子魚）、ヨシノボリ類（ハゼ科）などを薬品で眠らせて、全長・体長・尾又長（通常は体重も計測）を計測し、川に戻しました。なお、カゴ網にかかっていたウチダザリガニ（特定外来生物）は処分しました。



事業概要図

びさちよう 尾又長（通常は体重も計測）を計測し、川に戻しました。なお、カゴ網にかかっていたウチダザリガニ（特定外来生物）は処分しました。



観察活動の報告

釧路湿原川レンジャーの皆さんから寄せられた観察報告を紹介します。

今回は、樋門水路に土砂が堆積して草が繁茂しているなど河川管理施設に関する事やゴミの不法投棄、動植物についてなど、様々な報告がありました。また、特定外来生物の駆除を実施した環境に関する活動の報告もありました。

今後とも紹介しますので、皆さんからの報告をお待ちしております。

観察活動で報告された内容とその対応（6月～8月）

報告日	報告内容	対応
H27.6.23	動物の頭蓋骨を発見	何の動物かを調査後に返却
H27.7.6	ゴミの不法投棄を回収	釧路河川事務所処理
H27.7.17	大型ゴミの不法投棄	管理者である北海道に連絡
H27.7.17	昭和樋門吐口水路に草が繁茂	経過観察し、必要に応じて撤去予定
H27.7.31	動植物報告：ネジバナ、動物の糞	貴重な環境情報として取り扱う
H27.7.31	岩保水門コンクリートから石灰染み出し	釧路河川事務所経過観察
H27.8.10	ゴミの不法投棄を回収	釧路河川事務所処理
H27.8.11	オオハングソウ防除	連携するため環境省に連絡

